

I 実践

1 研究主題

思いやりの心を持ち、互いに認め合い、助け合うことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校では、「心豊かでたくましく、夢や希望をもって自ら学ぶ生徒の育成～生徒指導の機能を生かした明るく楽しい学校づくり～」を教育目標としている。それを受け、人権教育の視点として、「誰に対しても思いやりを持って行動できる」「認め合い、助け合って人のために尽くすことができる」の2点を掲げて取り組んできた。

本校児童の多くは、明るく元気で素直な児童が多い。また、やさしさやいたわりの心をもって生活している児童も多くいる。しかし、友だちとの関わりの中で、時として自己中心的になり、相手を思いやるという配慮に欠けた行動をとったり、相手のことを考えずに強い口調で発言したりしてトラブルになることもある。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人の良さを互いに認め合い、助け合うことのできる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）

イ 道徳教育の充実

ウ 人権メッセージや人権書道コンクールへの応募

エ 人権教育を意識した学級経営（心の声アンケート、日々の生活を観察等による実態把握）

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（異学年交流活動の実施）

毎週水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、学級ごとに遊びを決めて楽しく遊ぶ「とも遊び」を行っている。また、あおぞら班活動では1～6年生の縦割り集団を14班編制し、6年生の企画運営によるドッジボールやおにごっこ、大縄などをして遊んでいる。運動会では、「あおぞら種目」を設定し、大玉送りを行った。

イ さわやかマナーキャンペーン（あいさつ運動）の実施

年に10回、さわやかマナー週間を設け、昇降口や正門前であいさつ運動を行っている。高学年と低学年の当番の学級の児童が、PTAボランティアと一緒に「おはようございます」と、登校してくる児童に元気に挨拶の声かけ運動をしている。

ウ さわやかマナーキャンペーン（環境ボランティア）の実施

11月にあおぞら班の縦割り集団で、校庭や通学路、近隣の公園（助川城址公園、百兵地公園）の落ち葉拾いや、ゴミ拾いを実施した。

エ 地域の方々との交流

（ア）助川学区大運動会

本校の運動会は、地域コミュニティとの共催で実施されている。



〈あおぞら班種目〉



〈あおぞら班活動の様子〉



〈あいさつ運動〉

数多くの地域種目があり、多くの児童が地域の方と一緒に、楽しく競技に参加した。

(イ) 敬老会への参加（6年生、4年生）

毎年9月に行われる助川学区の敬老会では、6年生の代表児童が式典の司会進行を行い、4年生は合唱やリコーダー演奏、助川ソーラン節の踊りを披露している。



オ 福祉体験の実践（5年生）

〈環境ボランティア活動の様子〉

毎年、介護老人施設「さくら日立」に5年生が出向き、歌や踊りを披露し、お年寄りと交流している。

カ 命の学習会（4年生）（親子学習会）

助産師の先生と保健師の先生をお呼びして、人の誕生・命の大切さの学習会を開いた。

(2) 道德教育の充実

各学年とも、めざす児童像にむけて、道德の時間と他教科や他領域との関連を図り、「わたしたちの道德」を活用しながら、道德教育を進めている。

(3) 人権メッセージおよび人権書道コンクールへの応募

5、6年生の全児童が人権メッセージ・人権書道コンクールに取り組んだ。各学級からメッセージを選び、人権コーナーに掲示した。

(4) 人権教育を意識した学級経営

各学級において、一人ひとりの個性を大切に輝かせるため、学級活動や授業の中で、自分を表現する場を積極的に設定している。ペアや、クラス全体の関わりの中で、互いのよさを認め合う活動を通して、自己肯定感を高められるようにしている。帰りの会に、友だちの良いところを発表し、友だちの良さに気付かせる場面を設定している学級もある。

3 成果

- ・ 異学年と一緒に活動する機会を設けることにより、上級生が下級生の面倒を積極的にみる姿が見られるようになった。上級生としての自覚から、自然と相手に対して思いやりの心をもって接することができる児童が増えてきた。
- ・ あいさつ運動では、友だちや地域の方に対して元気なあいさつをすることができた。この運動を通して、日々のあいさつ習慣の一助となっている。
- ・ 地域の方やお年寄りとの交流を通して、世代の違う人々と自分の思いを通わせるなど、誰とでも思いやりの心をもって行動することの大切さを感じることができた。
- ・ 人権メッセージづくりは、人権について考えるきっかけとなった。メッセージを校内に掲示することで、友だちの思いに気付いたり、人権についての意識を高めたりすることができた。

II 今後の課題

- ・ 児童が様々な体験を通して、人権に対する意識をより高めることができるよう、学校生活の場で人権教育の充実を図っていきたい。
- ・ 家庭や地域でも人権に対する意識を高められるよう、連携を図り、啓発活動に努めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

- ・ 「うれしかったよ」のコーナーには、友だちの関わりの中で、『うれしい』と感じた児童のつぶやきを掲示した。

